

水底のやうや昼寝の幼稚園

山田真砂年

いつもの賑やかな子供達の声が消えて、昼寝の時間。静まり返った園内を、「水底のやう」と見てとられた作者。子供達の健やかな寝息も聞こえてきそうな、安穩な景が伝わる。作者の慈しみの眼差しが温かい。「稲」主宰。

俳句年鑑二〇二四年版より。

「馬酔木」九月号

「現代の秀句」

佐藤保子